

一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第 44 回 LLW 放射能評価分科会議事録

1. 日時： 2021 年 8 月 3 日（火） 15 時 00 分～16 時 10 分

2. 場所： Webex ソフトを使用しての Web 会議（日本原子力学会主催）

3. 出席者 （会議開始時点、順不同、敬称略）

（委員） 高橋（主査）、相澤（副主査）、大畑（幹事）、泉田、尾崎、柏木、小澤、佐々木、竹田、田辺、中田、原賀、伴場、平井、松居、三宅、吉岡（17 名）
（欠席：平井（1 名））

（常時参加者） 池戸、梅原、小瀬村、副島、竹内、野崎、林^(降)、林^(宏)、古田、宮田、村上、本山、脇（13 名）

（学会事務局） 田老

4. 配付資料

F10Ph2SC44-0 第 44 回 LLW 放射能評価分科会 議事次第案

F10Ph2SC44-1 第 43 回 LLW 放射能評価分科会 議事録案

F10Ph2SC44-2 L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況について

F10Ph2SC44-参考 1 LLW 放射能評価分科会 (F10Ph2SC) 委員名簿

5. 議事

（1）主査挨拶，Web 会議における注意事項及び出席委員の確認

冒頭，高橋主査より，開会の挨拶があった。

大畑幹事より，会合開始時点で委員 18 名中 17 名が出席しており，定足数(12 名以上)を満足している旨報告があった。

（2）前回議事録案の確認

前回分科会の議事録案（配布資料 F10Ph2SC44-1）について，大畑幹事より，事前送付してコメントがなかった旨説明があり，コメントなく承認された。

（3）L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況について

大畑幹事より，F10Ph2SC44-2 に基づき，L1 放射能評価標準の原子力規制庁による技術評価への対応状況について，以下のとおり報告があった。

- 5 月 6 日開催の前回分科会以降，5 月 13 日開催の原子燃料サイクル専門部会の審議を経て，6 月 3 日開催の標準委員会において，合計 11 名の技術評価への対応者が選任された。
- 6 月 23 日開催の原子力規制委員会において，「中深度処分対象廃棄物の放射能濃度決定方法に係る日本原子力学会標準の技術評価に関する検討チーム」（以下，「検討チーム」）を設置し，

公開の場での議論により技術評価を行い、令和3年度中に技術評価書案及び放射能濃度決定標準を引用する審査基準等の案をとりまとめ、原子力規制委員会に諮ることが承認された。

- 7月30日に第1回検討チーム会合が開催された。原子力学会から、L1放射能評価標準の概要について説明を行った後、質疑があった。また、原子力規制庁から、検討チームにおいて議論する内容及び第2回会合における日本原子力学会への説明依頼事項について説明があった。検討チーム会合での議論は不要であるが、技術評価書を作成する上で規制庁として原子力学会から別途説明を依頼する事項を列記したものについても原子力規制庁から紹介があった。

上記報告に対して、高橋主査より、検討チーム会合において論点がずれて議論が発散しないように注意して対応していく必要があるとの発言があった。

また、原賀委員より、原子力規制庁からの一部質問内容の趣旨について確認したいとの発言があり、幹事宛てに確認したい事項が連絡されることとなった。

なお、8月5日開催予定の原子燃料サイクル専門部会会合において、同様の報告を予定している。

(4) その他

大畑幹事より、現在、8月末を期限に今年度の標準委員会倫理教育についての自己学習の実施をお願いしているが、8月5日開催予定の原子燃料サイクル専門部会での倫理教育に関する議論結果も踏まえて、次回分科会で議論したい旨の発言があった。

また、次回会合の日時については、9月中旬頃に開催予定の第2回検討チーム会合での原子力学会からの説明資料案について議論することを念頭に設定し、後日、幹事より連絡されることとなった。

以 上